

報告事項コ

平成24年度県立学校第三者評価の実施結果について

平成24年度県立学校第三者評価の実施結果について、別紙のとおり報告します。

平成25年3月16日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

## 平成24年度鳥取県立学校第三者評価の実施結果について

平成25年3月16日  
高等学校課  
特別支援教育課

### 1 概要

平成22年度から、各年度毎に県立学校8校（高等学校6、特別支援学校2）ずつ実施している第三者評価について、以下のとおり実施しました。

### 2 実施状況

年度	H20 (試行)	H21 (試行)	H22	H23	H24 (今回報告)	H25 (予定)
学校名	倉吉東 境港総合技術 鳥取盲	八頭 米子 倉吉養護	鳥取東 智頭農林 倉吉西 倉吉総合産業 境 日野 鳥取養護 皆生養護	鳥取西 鳥取商業 鳥取中央育英 米子東 米子工業 米子白鳳 鳥取ひまわり 白兔養護	鳥取工業 鳥取湖陵 岩美 倉吉農業 米子西 米子南 鳥取聾 県立米子養護	鳥取緑風 青谷 八頭 倉吉東 米子 境港総合技術 鳥取盲 倉吉養護
実施校数	3校	3校	8校	8校 (内分校1校)	8校	8校

### 3 評価の実施体制

委員数	評価委員16人及び評価専門委員8人
評価チーム数	8チーム
1評価チームの評価校数	1校
評価チームの編成	評価委員2名と評価専門委員1名

### 4 平成24年度の経過

期 日	内 容
H24 4月19日 6月29日	評価対象校の決定 第1回第三者評価委員会 ・評価委員の研修の実施（第三者評価の意義、第三者評価委員の在り方） ・評価チームの編成、担当校の決定 ・評価項目・評価基準・評価方法等の確認
8月17日	第2回第三者評価委員会 ・評価委員の研修の実施（評価の在り方について） ・評価対象校の自己評価について ・改善計画の進捗状況について
9月～11月	各評価対象校2回（2日間）の学校訪問を実施
H25 2月21日	第3回第三者評価委員会 ・評価の決定
3月4日	評価書の交付 … 別添資料
3月31日	評価対象校による改善計画書の提出

<参考>

平成24年度鳥取県立学校第三者評価委員会委員名簿（敬称略）

【評価委員】（○印委員長）

氏名	役職等
○山岸 正明	セコム山陰株式会社鳥取営業所顧問
油野 利博	前鳥取大学附属学校部長
秦野 諭示	鳥取環境大学環境情報学部長兼学科長・教授
西田 英樹	鳥取大学総合メディア基盤センター長・教授
岡野 幸夫	鳥取短期大学国際文化交流学科准教授
西原 定代	株式会社協和製作所鳥取工場アドバイザー
内田 八孝	ダイヤモンド電機株式会社総務部鳥取総務課長
大家 祐子	株式会社プレマスペース代表取締役社長
齋藤 邦康	齋藤邦康税理士事務所所長
池内 勝彦	学校法人鳥取県東部自動車学校理事長
塩谷 隆之	株式会社彩々代表取締役社長
辻谷 由美	米子市教育委員
荒益 正信	元教育次長
岩垣 和久	前倉吉西中学校長
出脇 典子	元県教育委員会事務局障害児教育室長
国富 一郎	前鳥取市立東中学校長

【評価専門委員】

氏名	所属・職名
坂林 豊人	鳥取商業高等学校教頭
小倉 健一	八頭高等学校副校長
山田 典弘	鳥取中央育英高等学校教頭
綾木 正仁	米子高等学校教頭
岡谷 薫	米子工業高等学校教頭
狩野 鉄也	日野高等学校教頭
藤田 則恵	白兔養護学校副校長
涌嶋 祥雄	皆生養護学校教頭

## 平成24年度 鳥取工業高等学校 第三者評価 評価書

## 【講評】

昭和14年に創設され、70年を越える歴史と伝統を誇る工業高等学校であり、理数工学学科と工業学科を設置し、鳥取大学はじめ多くの国立大学・私立大学に卒業生を送り出す一方、工業学科の特色を生かした進路指導を進め、県内県外の産業界に多くの卒業生を輩出している。

鳥取工業高等学校は、今年度より重点目標を3点に絞り、その重点目標（確かな学力の育成、豊かな人間性の育成、キャリア教育の充実と生徒の進路実現）に向け、「ものづくり教育」を進め、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の徹底と「あさひ」（挨拶・作法・人の話を聞く）の徹底を図るとともに、自然科学や工業技術方面で活躍する専門的な能力・問題解決能力を持った人材育成を図っている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教育目標の達成に向けて教職員がのびのびと勤務している様子うかがえて活気のある学校という印象を受けた。教職員の適性・状況に応じて分掌配置を行い、主任制が適切に機能している。今後の学校運営が組織として一層充実するよう、管理職の指導を期待する。
- ② 理数工学科を中心に土曜日補習を実施したり、授業に集中していない生徒への指導を適宜行ったりして、個に応じた補習・指導を進めている。また、インターンシップ・鳥工版デュアルシステムの実施など就職希望者への手厚い進路指導や大学訪問など高大連携を充実させることで進学希望者への意識向上の取り組みを進めている。
- ③ 中高連携を充実させたり、地元地区との懇談会活動を推進したりするなど校外への働きかけはたいへん活発である。また、学校関係者評価委員等の意見・提言に丁寧に応えたり、今回の第三者評価委員による1回目の学校訪問で改善を指摘された教育環境の整備については迅速に改善したりするなど、学校が外部からの指摘や意見を大切にしていることはよくうかがえた。今後も校外の意見に耳を傾け、校外連携を充実させ、学校運営の円滑な推進を図ることを期待する。
- ④ PDCAサイクルを機能させ、前年度の反省を踏まえた改善を実践している。例えば進路指導では従前実践している取り組みに加え、今年度は面接対策を強化するなど「実」のある変革が実現できている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 管理職は教職員の意見に耳を傾け、声かけ等を頻繁に行っているが、教職員の中には新たな学校重点目標を把握できていない者もあり、年度当初に限らず、さまざまな場面で学校重点目標の周知徹底を進めるべきである。一方、公開授業や研究授業の実施回数・参加者ともに少なかったり、生徒の自宅学習の時間が少なかったりするといった実態がある。重点目標にもあげられている確かな学力を生徒に身につけさせるため、授業改革に向けた教職員の意識変容を図り、さまざまな場面で生徒が主体的に取り組むような仕掛けづくりを進める必要がある。
- ② 各担当分掌の中で「手順書（マニュアル書）」の存在が不明確である。学校重点目標実現に向けて、それぞれの担当者が自分では理解できている業務内容も、他者から見てもわかりやすく、しかもその業務遂行を進める上で必要な「手順書」の意義が浸透していないので、どうしても特定の担当者（担当分掌）任せになっている。それらの業務を見直し、組織化円滑化を図るためにも早急に各業務についての「手順書」を作成する必要がある。また、旧文書と最新版の明確な区別を図る等、適切な文書管理等を進めることが重要である。
- ③ 各種アンケートを実施し、授業改革や改善を図ろうとしてはいるものの、例えば学力分析が不十分であったり、アンケートの質問項目にも工夫が必要なものがあつたりして、形だけのアンケートになっているのではないかと危惧する。今後はアンケート項目（内容）の改善・精選が求められるとともに、アンケート分析を受け、学校重点目標に照らし合わせ、実効性のある具体的改善方策を提案し、即時実行していただくことを期待する。

## 平成24年度 鳥取湖陵高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

複数の専門学科で構成されている比較的新しい学校であることをふまえて、生徒が進路を切り開いていく力を付けるための教育指導に教職員が一丸となって取り組んでいる。一人ひとりに応じたきめ細かい指導が行われており、生徒は自信を持って学習や諸活動に取り組むことができている。

これからは、地域の活力を生み出し、地域を支え、地域の中心となって動ける人材が求められる。そのために、社会人としての自覚と責任と自主性を育てていくことが益々必要とされる。これまでの不断の努力によって教育的な成果の向上が図られてきているが、地域の専門高校として、さらなる指導の充実が望まれる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学校の特色を生かす総合選択制の実施など、生徒に多様な知識や技術を身につけさせるための工夫と実践が重ねられている。特に、生徒の主体的な学び合いを育成することによって学校の活力を生み出そうとする「学びの集団づくり」の研究では、各教職員が意欲的に理論研究・実践研究に取り組んでいる姿があり、成果が期待される。
- ② 進路を切り拓く学力の向上、社会人としての自立をめざし、少人数による指導・大学生による学習セミナー・資格検定の指導・社会人講師による指導や講演などに力を入れ、一定の成果を出せるようになってきている。
- ③ 教育相談の体制が整備されており、教職員が生徒に関する情報交換を頻繁に行って、生徒の小さな変化に対応ができるようになってきている。実際の指導においても、きめ細やかな対応がなされている。
- ④ 朝読書の推進、授業での積極的な活用、生徒による図書館活動・読書活動などにより、生徒に本を読む習慣が備わってきている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒の人格形成・倫理観の育成に関する指導は、学校教育の中だけで進めるのは難しい面がある。地域や社会と一体となって指導していくという観点を念頭に置いて、連携を深めていく必要がある。
- ② 生徒全体の指導に関することからで、一部の学科のみの取り組みに終わっているものがある。指導内容を再点検し、学科を超えた教職員同士の連携を図る必要がある。また、教職員の意識と理解に差がある指導内容もあり、さらなる共通理解を進める必要がある。
- ③ 数多くの機器設備があつて事故の危険性の高いことが予想されるので、点検・保守を十分に行うとともに、生徒には安全が最優先の指導を徹底していく必要がある。
- ④ 学校自己評価表の評価項目がやや網羅的で具体的にどんな成果を出そうとしているのかが分かりにくい。従って、目標達成のための方策には、数値目標など客観性があると同時に、総合選択制の有用性が評価できるものを設定する必要がある。
- ⑤ 全体的に学校から出す情報が少なく、学校の取り組みが外部からは分かりにくい。PTA・学校関係者や地域から学校を支援していただくために、さまざまな方法・手段を用いて学校の情報を公開する必要がある。その中の一つであるホームページは、内容の充実を図ることと更新のタイミングを工夫する必要がある。

## 平成24年度 岩美高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

地域貢献・地域との連携がどの学校でも求められているが、岩美高等学校は立地状況もあり岩美町に的を絞って行われ、他の高等学校には真似のできないところが多く見られる。各種の学校独自事業に岩美高等学校カラーがしっかり出ており、成果もあがっている。特に、キャリア教育に関しては経年的に優れた成果をあげている。

一昨年度に「岩美高宣言」を発表する等、ケータイ・インターネット教育に力を入れてきている。TEAS（テス：鳥取県版環境管理システムの愛称であり、環境配慮活動の取り組みを一定の基準をもとに審査・登録する制度）委員会の設置やTEAS検定等、環境保全についての活動がしっかりなされ、全校体制で真摯に取り組んでいる姿勢は立派である。総じて、教職員全体が岩美高等学校を良くしていこうとしている熱意が感じられる。

落ち着いて教育ができる環境を作らねばならないと、生徒指導や部活動指導の充実に具体的な目標を置き、次に学習習慣の確立を目指して教職員集団も結束して学校作りが集中的に行われてきた。今後は、次のステップとしてどこに目標を置き、生徒に何を求め、教職員が何を中心に学校を運営していくのかを明確にしていく時期に来ていると考える。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① すれちがう生徒達は服装もきちんとしていて、挨拶もしっかりできていた。授業が普通に行えるように、生徒指導に力を入れてきた成果が現れてきている。さらには、生徒側と教職員側との相互理解に基づいた生活態度の一層の向上を期待する。
- ② 生徒の基礎学力の向上や学習習慣の定着を図る手段として、イワッツ検定試験（国語・数学・英語・社会で実施する基礎学力定着度を測るための学校独自の試験）やリスタート学習（基礎知識・基礎学力の確実な定着を図る学習）を粘り強く行い、生徒の進路選択の拡大に寄与すべく教職員集団が一致団結して取り組んでいる。
- ③ キャリア教育を通して、生徒の労働観の育成、進路選択に資する取り組みは評価に値する。実績をもっと外に発表していくことを期待する。
- ④ 生徒会を中心にケータイ・インターネット教育啓発推進に取り組んでいることは、社会人としての意識付けの効果が期待できる。一昨年度の「岩美高宣言」などは他校も見習いたいものである。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学習や生活面での生徒指導が成果をあげている中、部活動における教職員の指導の行き過ぎがあり、特に体罰につながった行為は反省すべきことである。併せて、迅速に管理職に報告があがる体制を整えることが必要である。
- ② 校訓や学校教育目標を常に生徒が見える場所に掲示し、生徒の意識付けを日頃から行っていく必要がある。また、教室や廊下掲示にも気を配り、学習環境を工夫し整えることを期待する。
- ③ 交通が止まった時や災害時における、生徒の安全を守る手順の検討を早期に行う必要がある。

【講評】

倉吉農業高等学校は自然豊かな丘陵に広大な校地と施設・設備を保有し、使命と期待のもとに農業教育をはじめとするあらゆる教育の場として、教職員の情熱と信念で教育目標の「豊かな感性を育て、基礎基本を大切にして知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成」が授業・課題研究・部活動・進路指導等を通して図られている。

今後は、進んで行く少子化と後継者不足を解消する農業の重要性を再認識し、様々な問題に対応できる力を持った社会人の育成を目指していただきたい。生徒一人ひとりの個性を生かして指導内容の充実を図るとともに、安易な妥協や自己満足感に陥ることなく、社会の急速な変化に対応しスピード感のある新たな事業展開を期待する。祥雲寮やその他の施設の有効活用、県内外等からの生徒の受け入れなど、学校関係者の理解と連携により、目指す姿への学校運営改革が求められる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 127年の伝統に生まれ、自然豊かな環境と多くの施設・設備を活用し、寮・授業・寮での共同生活・農場当番・課題研究等、3年間の農業教育と進路指導は地域社会に貢献できる人材育成の場となっている。
- ② 定数・学級減の影響を受ける中で、少人数編成授業や少人数での部活動など、生徒の特性に合わせた家庭的で適切な指導が行われており、就職・進学内定率100%に向けて努力している点は評価に値する。
- ③ 「学校カレンダー・学校通信・倉農新聞・HP」の作成は、広報活動として内容も充実し、教職員の熱意が感じられる。また、倉農祭や学校開放は保護者や地域の理解と連携を深めており、学校の活動実績がTV・新聞等で何度も取り上げられていることも評価できる。
- ④ 重点実施項目である「農業の6次産業化」は、学校全体で目的を共有し、未完成ではあるが倉農の目指す教育活動の姿として、生産物の育成・加工・販売・資源の再利用等の技能伝承と新技術開発により、少しずつ具現化されている様子がうかがえた。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒・保護者に対するアンケートの結果は良好であるが、その活用は各教師に任せられ、学年・学科別の内容で分析されておらず、教職員のアンケートは未実施で学校全体の運営に活かされていない。結果を生徒にも開示して授業改善に活用する等の改善が望まれる。
- ② 広大な校地や、施設・設備を活用した授業や寮生活等の、教育環境は整備されている。しかし、限りのある予算の中で農業のグローバル化や少子化による生徒減に対応していくためには、新たな発想で教育委員会や地域との連携強化を図り、幼少期から農業への興味を高めたり、県外からの生徒受け入れや外国の生徒との交流などを行うことにより、生徒数の確保や教育内容の活性化を図る必要がある。
- ③ 様々な課題を持つ生徒に対しての、保護者や地域の要望に応えようとする学校の取り組みは理解と評価はできる。しかし、指導が滞っている部分も見受けられることから、生徒に目的・目標や課題・楽しさを理解させ、やる気を引き出す指導内容が求められる。
- ④ 農場当番や施設管理において専門教科の人事異動の固定化から、一部の業務が若手教職員に集中している。施設の維持管理や新技術開発等の業務については、外部機関との連携強化や専門職員の増員を県教育委員会に要望することが必要である。
- ⑤ 読書・補習授業・自宅学習等、生徒の能力や進路に合わせた教育が十分になされているとは言えない。学力や生活態度の更なる向上のために、保護者の理解と学校全体で取り組む質の高い進路指導が必要である。

## 平成24年度 米子西高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

学校長は、普通科進学校として質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知・徳・体・志」のバランスのとれた人材を育成することを教育方針とし、学校経営ビジョンとして「知・徳・体・志」を追求する学校像を示している。そして教育目標の実現に向けて、教職員の学校経営ビジョンの共有化や学校経営への参画による学校運営組織の活性化に力を注いでいる。教職員は熱意をもって親身な指導に努めており、分かる授業・やる気にさせる質の高い授業をめざして計画的に校内研究授業や県外教員との授業研究にも取り組んでいる。生徒の活動も活発で、生徒と保護者による2000人壁画や、文化부가統一テーマのもとで行う総合芸術祭「翠燦く」は特徴的な活動である。部活動は運動部、文化部とも盛んで、活動は本校独自の「部活動シラバス」に基づいて活動し優秀な成績を上げている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教職員は熱意をもって分かる授業・やる気にさせる授業をめざし、年2回授業公開での研究授業及び合評会、県外教員との授業実践研究交流事業の取り組みなど、授業力向上に努めている。また、生徒の学習内容の定着と家庭学習の習慣化、学習サイクルの確立の指導に力を注いでいる。
- ② ホームルーム活動の指導計画は各内容項目を踏まえており、教職員は親身な指導により学級経営における望ましい人間関係の育成や学習環境づくりに取り組んでいる。
- ③ 総合的な学習の時間は、キャリア教育計画に基づき3年間を見通した進路について考察する学習活動であり、積極的に地域人材や高大連携で大学教員の活用を図っている。
- ④ 学校図書館運営は、学校図書館運営計画に基づき読書センター及び学習・情報センターとしての機能を活かした創意工夫された学校図書館活動を推進している。
- ⑤ 学校評価システムは整備され、教職員は分掌・学年・教科の評価項目設定と評価活動に参画している。生徒の教科別授業評価は学期毎に実施し、各教科担当者は授業改善の課題と改善策、今後の取り組みについて報告書を提出し、全体でまとめている。また、生徒、保護者とも学校評価アンケートを学期毎に実施し、学校自己評価の基準資料として活用している。
- ⑥ 学校に関する情報公開では、学校の教育活動や生徒の活動等をPTA会報や学年便りなどで保護者に届けるとともに、マスメディア等にも積極的に情報発信している。また、学校ホームページの情報発信内容、活用は創意工夫ある積極的な取り組みである。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒指導は組織的な指導体制で問題行動や遅刻者対策、交通安全指導等の生活指導を主とした治療的な生徒指導である。生徒指導は教育課程の内外にわたって働く機能としての教育活動であり、開発的、予防的そして治療的な生徒指導を内容とする生徒指導全体計画の策定が必要である。
- ② 学校図書館経営は評価できる取り組みであるが、学校運営組織としての学校図書館運営委員会及びメディア選定委員会の設置が必要である。また、学校図書館を全校的機関として分掌組織への位置づけが求められる。
- ③ 現行の組織運営における分掌・学年・教科の主任の業務や責任体制は明確であるが、運営組織における主幹教諭の役割とその位置づけ、そして特別活動と総合的な学習の時間の主任を明確にした校務運営組織・分掌の見直しが求められる。
- ④ 重点目標と整合性ある評価項目の設定、そして当該分掌・学年の評価項目との整合性を図り、学校ビジョン具体化に向けてその道筋が見えやすい評価項目を設定することが必要である。

## 平成24年度 米子南高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

鳥取県立米子南高等学校の起源は昭和2年創立の県立蚕業学校に遡り、以後、校名変更・改組を経て平成13年4月に現在の校名に改称された。教育目標を、①「基礎基本の徹底」により「学力の向上」に努める、②「勤勉」と「友愛」の精神を養い、「自主的」で「社会性」豊かな精神を養う、③「専門的技能」の習得と研鑽に励み、社会に貢献する資質を培う、とし、更に中長期目標として、「社会人として必要な規範意識、人間関係力を身につけ、一般教養と専門的技能をもって、地域社会の発展に寄与できる人材の育成を図る」ことを掲げている。

評価資料並びに2回の学校視察と聞き取り結果から、同校は上記目標に沿った教育を丁寧な実践に移し、順調に運営されていると判断することができる。即ち、校内における基礎的・基本的な学習や部活動に留まらず、地域や社会と連携した応用・実践的な学習を積極的に推進し、学校が目指す地域社会の発展に寄与する人材育成に大いに役立っている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展させていただきたい主な事項である。

- ① 専門高校としての特性を活かしながら魅力あるカリキュラムを通して、実社会で必要とされる実務能力や資格等を取得・習得できる体制が整備され、生徒も前向きに取り組んでいる。
- ② 各科、各コースが課題研究の授業を中心にして、特色のある研究、体験活動、発表に取り組んでいる。特に、校外の専門家によるレベルの高い指導を積極的に受け入れたり、地域の行事へ積極的に参加している。発表活動を通じて学校外に積極的にアピールすることによって評価が高まり、生徒の自信と学習の質の向上につながっている。
- ③ 校内が良く整備されている。明確な環境目標を設定し、環境活動が効果的にできている。併せて、生徒の表情が明るく、挨拶がきちんとでき、その結果校内の雰囲気が良い。
- ④ 図書館活動に優れた工夫がなされている。読む・調べる・考える場の提供であると共に、学習成果物の展示や交流の場となっている。図書館を利用した授業も成果をあげている。
- ⑤ PTA役員だけでなく、有志による地域巡視が伝統的に行われるなどPTA活動が活発であり、生徒の安全確保や教育環境の向上を積極的に支援している。
- ⑥ 特別支援教育の研究や特別支援体制の整備が積極的になされているなど、特別支援教育への取り組みが充実している。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 上記①②のように特色ある取り組みが積極的になされている反面、学校全体としての特色やアイデンティティ（米子南高校はどういう学校か）が明確に伝わっていない。生徒募集や認知度に良い効果を得るためには、商業学科及び家庭学科の特色や方向性を明確に表現することが必要である。
- ② 教職員は目標に向けた取り組みや、問題解決に向けた取り組みで、日夜負担が大きく非常に多忙な様子がうかがえる。心身ともに健康を保たれるよう希望する。
- ③ 本校舎から体育館への移動において、一般道路を通ることが避けられず、非常に危険である。教育委員会と連携して、早急に対応する必要がある。
- ④ 教室の整理整頓が不十分であったり、黒板（白板）の端に授業以外の情報が書かれていたりする教室がいくつかあった。教育の場に相応しい環境に保つ必要がある。

## 平成24年度 県立鳥取聾学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

『聴覚障がい児一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。』という基本方針のもと、今年度は特に、①確かな学力の定着を図る学習指導の充実、②豊かな心と健やかな体の育成、③よりよい社会参加に向けての豊かな自己表現力の向上の3つに重点を置いて教育活動が行われている。

24名の幼児児童生徒は手話やキューサイン等を用いて積極的にコミュニケーションをとりながら、勉強や部活動等に励んでいる。幼稚部から高等部まで幅広い年齢層の子どもが在籍していることから、将来の自立と社会参加にあたっては、学校として一貫性のある指導及び支援を積み重ねていくことが非常に重要である。そのためにも、各学部や分掌の体制の充実はもとより、相互の連携や円滑な情報共有等を図るための検討や工夫を重ねていくこと、教員の専門性、指導力等を高めていくこと等が必要である。今後も一層の改善、向上につながる取り組みを期待する。

以下は、委員として高く評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学校長から教職員に対し、学校経営方針やビジョン等が具体的に提示され、教職員に浸透し、学力向上に向けて、個に応じた丁寧な指導を行い、幼児児童生徒の意欲喚起につながる取り組みを実践している。
- ② 教職員が率先して文化的・芸術的な活動やスポーツ等の指導に努め、様々な分野で全国的なレベルでの活躍で高い評価を得る等の成果をあげている。
- ③ 学校ホームページを毎日更新し、学校教育に関する情報発信や聴覚障がい教育についての啓発に積極的に努めている。
- ④ 学校施設が明るい雰囲気、安全に配慮した整備がなされている。また、聴覚に障がいのある子どもが必要な情報等を得ることができるよう、校内掲示や板書の工夫、電子黒板等の機器活用といった環境面の配慮や整備が行われている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 在籍する幼児児童生徒が少ないことから、マンツーマン又は少人数の授業形態が多く、個の実態に応じた指導・支援は、丁寧になされている。自己表現や自己理解、他者理解等の力を育てるために、授業形態や集団の構成の工夫、交流及び共同学習の充実等、集団活動を取り入れた学習活動を積極的に進めることを期待する。
- ② 高等部卒業後、大学等への進学を希望する生徒の占める割合が高い状況から、進路希望に応じた教科指導の充実が重要となる。幅広い進路選択に柔軟に対応できるよう、教職員間で適切に情報を共有しながら、教育課程の編成や運用において更なる工夫を進めるとともに、生徒や保護者に対する積極的な情報を発信していく必要がある。
- ③ 幼児児童生徒の勤労観・職業観等を育み、主体的に進路選択する能力・態度の育成を図るために、学校全体で一貫性のあるキャリア教育に取り組む必要がある。キャリア発達支援段階表及び年間指導表等の効果的な活用を期待する。
- ④ 校務分掌の改編に取り組み、役割分担をしながら効果的な業務推進が進んでいることをふまえ、今後は分掌、学部等の相互の情報共有、つながり等が一層図られる体制作りを期待する。

## 平成24年度 県立米子養護学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

18歳で自立・社会参加できる人間を育てるというミッションを教職員全体で共有し、「優しく 易しく やさしく…そして穏やかに！」の職員信条に基づいた教育活動が行われている。

県立特別支援学校の中では最も児童生徒数、教職員数の多い学校であり、子どもの障がいの重度・重複化、多様化が進んでいる状況の中、一人一人の教育的ニーズに基づいた適切な指導を行うため、教職員は情熱を持って熱心に業務にあたっている。

子どもは明るく活発で、全体として意欲的に学習に取り組んでおり、学校全体に活気がある。また、子どもが見通しを持ち、主体的に学習活動に参加できるよう、教員による魅力的な教材・教具が効果的に活用されている。今後、さらに保護者や関係機関、地域等との連携を図りながら、現在成果をあげている点はさらなる充実を、課題については改善に向けた積極的な取り組みを期待する。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学校長を中心に、中・長期的な経営ビジョンをもちながら具体的な教育目標や戦略的な取り組みが計画され、着実に実践されている。
- ② 各学部、分掌における教職員一人一人の役割が明確であるとともに、組織的に対応することを念頭に置いた体制作りが図られている。ジョブシェアリングや主担任制の導入等、組織の活性と業務の効率化に向けた先進的な取り組みをしている。
- ③ 高等部卒業生の就職希望者の多くが就職を実現しており、県内の特別支援学校卒業生の企業等への就職率向上に大きく貢献し、成果を挙げている。
- ④ 特別支援教育のセンター的機能が発揮され、地域の小学校・中学校及びその保護者等からの信頼を得ながら、相談・助言活動等が進められている。また、学校ホームページを随時更新し、積極的な情報発信や啓発を進めている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 一人一人の児童生徒に着実に力をつけ、確かな教育実践を積み上げていくためには、子どもの実態に基づき、ねらいが明確な学習活動となっていること、一貫性・系統性のある指導であること、必要な支援が過不足なく行われていること等が重要である。各教科等の年間指導計画等の柔軟な見直しや、実態把握のためのチェックリストの整備・活用等の取り組みを望む。
- ② 今年度、教職員の法令の遵守や服務規律の確保に反する事案が発生したことをふまえて、その改善に向けた不断の取り組みを進める必要がある。そのためには、教職員同士がチームで十分な連携を取りながら何事にも当たり、お互いが何をしているのかを把握できる環境を作っていくことが重要である。教職員が相互のコミュニケーションを密に取りながら、困ったことがあれば助け合ったり、声を掛け合ったりしやすい職場作りを期待する。
- ③ 職業教育、キャリア教育については、高等部だけではなく早期からの適切な指導を積み上げていくことが大切である。学部間の一層の連携を図り、一貫した指導体制の構築をより進めていただくことを期待する。
- ④ 児童生徒の自立と社会参加においては、倫理観や道徳心の育成も重要な視点である。教育課程上の位置づけを明確にしながら、学校教育全体を通して適切に指導を行うことが必要である。